

第6 1回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）会議記録

日時 令和5年9月19日(木) 13時30分～14時05分

会場 新津医療センター病院 大会議室

参加者 14名 欠席9名

1. 連携手帳の現状と問題点

- ・ ACP のページをいろいろな地域で紹介しているが、どこで手帳をもらえばいいのかとしばしば聞かれる。
 - 介護サービスが始まった段階でサービス事業所から渡されている。
 - そもそも ACP は介護サービスが始まる前から利用頂きたいもの。
 - 連携手帳自体をもっと利用するように促せないか。
- ・ 現在、薬の追加なども手帳の自由記載などを利用して、行うケースもある。

2. 連携手帳の発展的活用

- ・ これまでも ACP のページの活用など行ってきたが、摂食嚥下のページの活用はどうか。
 - そもそも、書くという作業が煩わしいと思う気持ちが本音ではないか。
 - かかりつけ医、かかりつけ歯科、かかりつけ薬局など基本情報が書かれていないことが多い。薬手帳、血圧手帳などもあり、なにが大切なかわからなくなる。
 - 手帳の究極の目的は連携では。シートがたくさんありすぎか。
 - 手帳のジプロックに薬手帳や保険証、診察券などを入れて上手に活用している方もいる。家族とのコミュニケーションとして利用している方もいる。
 - 使用方法など分かりやすく説明するものも必要か。
 - 基本情報なども、きちんと記入されていれば緊急情報キットの情報よりも多くの情報が得られる。第2のカルテとして活かしている先生もいらっしゃる。
 - せっかくここまで普及している秋葉区での手帳は有効に活用していくべき。SNS とは違った活用ができる。

3 その他

- ・ 次回 令和6年12月19日(木) 13時30分
新津医療センター病院 大会議室

以上